

### 愛知の国立大 4学長と知事語る

# 開拓の知 育てる

経済の著しいグローバル化や社会の少子高齢化が日本の将来を不透明にする中、各地の大学には、社会の活力を維持し、新しい時代に対応する人材を育てるという役割がいっそう問われている。愛知県の国立大4校、愛知教育大(刈谷市)、豊橋技術科学大(豊橋市)、名古屋大(名古屋市中種区)、名古屋工業大(名古屋市中区)の各学長と大村秀章知事に、人材育成や産業貢献の在り方について語ってもらった。

(司会は河津市三・中日新聞社常務取締役編集担当)

## 人材育成

少子高齢化が進み、世界的に産業構造が変化しています。その中で、大学本来の役割である人材育成と教育を愛知県の国立大4学長として、どのように考えますか。

### 名大 世界で通じる学位提供

名大は、技術革新(イノベーション)の発想と高度な専門性を持ち、技術を進化させる人材が求められます。多面的な視点を持って、新たな価値や製品を創造することも必要です。変化の激しい社会で生き抜くために、多様な価値観を受け入れる豊かな教養と科学的な基礎力が重要だと考えています。

## 技科大 視野広げ 付加価値生む

学生が留学や海外研修でできるようなプログラムを組んでいます。外国人留学生は現在百八十人ほどいて、全体の10%を切っているが、将来30%近くまで増やしたい。英語と日本語のバイリンガルのコースをつくりたいと考えています。

## 名大 世界で通じる学位提供

愛知教育大を含め全国の教員養成系の大学はそれぞれ独自の特色を持って、既に規模の事情の中で、既に規模縮小などを考えています。が、教育大学として、今後教員養成を重視する姿勢を貫きたい。

### 名古屋工業大 鶴飼 裕之 学長



うかい・ひろゆき 1954年3月5日生まれ。61歳。名工大大学院工学研究科修士課程修了。14年から学長。専門は次世代送電網などの電力システム工学、制御工学。

### 愛知教育大 後藤 ひとみ 学長



ごとう・ひとみ 1956年8月10日生まれ。59歳。愛教大大学院教育学研究科修士課程修了。日本養護教諭教育学会理事長などを歴任。14年から学長。専門は養護教育学。

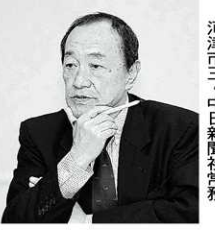
## 愛教大ものづくり教育が基本

## 名工大 6年一貫で創造性養う

ものづくり産業も女性の目線が求められている。女子推薦枠を拡大し、工学分野で女性研究者を育成する。学部と大学院修士課程の間の段差をなくし、六年間を有効に使うことも必要です。新たな技術革新の創造を促す「工学デザイン」など六年一貫制の教育課程を開設します。

ものづくりに目覚めた生徒は、愛知教育大は正規の教員として就職する数が五年連続で全国一位です。学生定員の規模は全国四番目なので、大きな実績です。近年、大学の都合で帰国が進む中、本学は自然に恵まれ、感性を見失うことなく人を育てられる環境にあると思います。

改革の柱は、実践力と高度化と再教育です。実践力とは、一般教養とは別に、教師としての教養を高める「教師教養科目」を設けておられます。特別支援教育や危機管理、キャリア教育など全学生の教養として最低限必要なことを学ばせたいと考えています。



河津市三・中日新聞社常務

## 世界に羽ばたく「知」の力を磨く四大学。



### 2021年創設150周年 世界屈指の研究大学へ!

世界水準の教育・研究活動、アジア展開による国際化推進、社会連携によるイノベーション創出。



国立大学法人 名古屋大学 <http://www.nagoya-u.ac.jp/>

### 2016年4月 新学科・新専攻始動!

創造工学教育課程 / 生命・応用化学 / 物理学 / 電気・機械工学 / 情報工学 / 社会工学



国立大学法人 名古屋工業大学 <http://www.nitech.ac.jp>

### 子どもたちの未来を拓く人になる!

140年以上の教員養成の実績から、広域拠点型の大学として「実践力育成」「高度化」「再教育」を実現。



国立大学法人 愛知教育大学 <http://www.aichi-edu.ac.jp>

### 開学40周年『世界に開かれた技術科学』

地域に根ざし、世界に開かれたトップクラスの工科大学を目指します。



国立大学法人 豊橋技術科学大学 <http://www.tut.ac.jp>

# 愛知の国立大 4学長と知事語る



座談会に出席した(左から)豊橋技術科学大の大西隆学長、名古屋工業大の鶴岡裕之学長、愛知県の犬村秀章知事、愛知教育大の後藤ひとみ学長、名古屋大の松尾清一学長、中日新聞社の河津市三常務

# 革新の地 支える

## 名大産学官連携 文系の声も 技科大外から人材集める役割

### 地域貢献

地域貢献や産業貢献についての考えをつかがたい

松尾学長

産学あるいは産学官連携は改善する余地が多い。大学側も産業界も国もそう思っています。一件当たりの企業との共同研究の金額は全国平均で二百五十万円から二百六十万円ほど。欧米と比べ二桁くらい少ない。飛躍的に伸ばさないとけません。

名大はいろんなナショナルプロジェクトをひとつずつやり方を変えて試行錯誤しています。ノーベル賞受賞の天野浩先生、赤崎勇先生を中心に来来エレクトロニクス集積研究センターをつくりました。産業技術総合研究所(産総研)や物質・材料研究機構、企業二十五社のコンソーシアム(共同体)を十月に始め、官も巻き込んだ新しい産学連携を追求しています。

次世代炭素繊維の加工や次世代のモビリティ(移動)を研究するプロジェクトもある。航空機関連などは裾野が広くて数百社にもなる。オールジャパンのプロジェクトを名古屋でやることに意味がある。文系も入れて新しい分野を切り開き社会に貢献したい。一番大事なのは産業界と大学と行政が腹を割って話をして目標を明確にしていくことです。

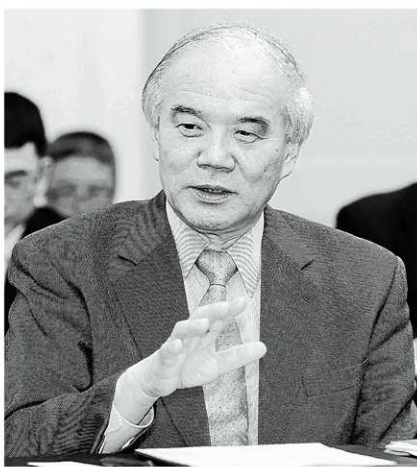
後藤学長

理科離れを防ぐために理科や技術の教員が中心になって学校を回り、科学実験をやっています。先日名古屋で科学もつくりフェスタという催しがありました。子どもたちが自覚め、理科を究めたいと豊橋技科大や名古屋大、名大、そして企業に行くことになる。人づくりは長い目で見る必要がある。価値観の崩れた人間が育てて技術力だけ

## 豊橋技術科学大 名古屋大

大西 隆 学長

松尾 清一 学長



おおにし・たかし 1948年7月16日生まれ。67歳。東京大大学院工学研究科博士課程修了。14年から学長。11年から日本学術会議会長を務める。専門は社会システム工学など。



まつお・せいいち 1950年12月20日生まれ。65歳。名大大学院医学研究科で博士課程修了。名大医学部付属病院院長などを務め、15年から学長。専門は腎臓内科学。

## 名工大企業からの投資拡大を

がアップする世界はますます。テクノロジがすごいからこそ、気持ちの部分で忘れてはいけない。

愛知県は外国人児童生徒の数がたいへん多く、さらに増えつつあります。外国人が就労すると、その子どもの就学期間も長くなりま

す。外国人の児童生徒の学校生活がうまく進むよう日本語教育にも力を入れていきます。

もう一つの柱は特別支援教育です。愛知は特別支援教育ができる免許を持った教員が少ない。発達障害を含めた特別支援に取り組んでいかなければなりません。こうしたことが間接的に産学連携への協力だと思

います。大西学長 四年ほど国の総合科学技術・イノベーション会議の委員をしています。目標の一つが年五兆円の科学技術予算の確保。しかしひっくり返ると四兆円程度です。民間の開発費は十二兆と三兆円。民間から大学に流れるのは四百億円とか五百億円でかなり少ない。ここを太くすることが産学連携の観点から必要です。

産業界から見ると、大学の先生とじかに付き合うのが何となくリスキーだと思っている。誰かが橋渡ししてくれれば助かると。そこで民間との仲介役としてノウハウを持つ産総研と共

同ラボをつくりました。日本企業は、日本であり大学の研究開発資金を出さないが、海外では結構大口の話が新聞に載ったりします。海外の大学と提携して日本企業に入ってもらおうと、カリフォルニア工科大と共同ラボもつくりました。試行錯誤しながら、民間と大学を結びつけていかないといけないと思っています。

五十七校の高専が全国にはあり、まんべんなく学生が来ます。県内からは12%ですが、愛知で就職するのは26%。外から人材を集める役割を果たしています。豊橋では技術力のある中小企業とネットワークを

## 愛教大外国人の子どもも支える

つづけてきましたが、全国的に進めたい。鶴岡学長 産業構造が大きく転換しています。製造業が海外転出してきた。人口減少で労働人口が確保できない。企業の合併などもあり、大きな変化です。わが国の研究開発費の70%が企業のもので、うち2・1%くらいしか大学に来ません。こういう現象は米国でも一九八〇年ごろにあった。産業界の活力を大学に入れる仕組みがつけられた。ドイツでは14%も産業界の資金が大学に流れている。大学に対する企業の研究投資が可能になる枠をつくらないとけない。先日名大などとベンチャーファンドをつくりましたが、もっと拡大して共同研究のファンドをつくっていく。行政に後押ししてもらう必要があります。

もうひとつは世界的な大企業のネットワークの活用。外国人教員の研究ユニットから日本の企業とやりたいという声があります。世界的な共同研究ネットワークがつけれる。中小企業は持続的なイノベーションが不可欠で、不安材料になっていますが、愛知県を通じ、あいち産業振興機構と県中小企業診断士協会と提携し、中小企業と若い技術者、学生と一緒に製品開発をしています。こういう仕組みをどんどんつくる必要がある。キャンパスを中心とした地域社会の多様化が、世界的大都市圏に押し上げる力につながれば良いと考えています。

## 人が人を呼ぶ愛知に 犬村知事



愛知県には全国で3番目に多くの大学があり、活力があふれています。そういう人材をどう育て、どう生かすか、地域は問われています。国内総生産(GDP)は技術、資本、労働の掛け算で決まります。県は産学連携を仲立ちしたり、企業の研究開発拠点を呼び込んだりしています。小型ジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)の量

産工場もその一つです。集積が集積を呼ぶ好循環ができつつあります。資本は「民力」と言い換えられます。付加価値を生み出す民間企業を後押しする施策を打ち出しています。技術を伸ばすのも生産を担うのも人材です。米国の競争力の源泉は大

学にあると思います。世界中から頭脳が集まり、大学を出た後も大半が米国で働く。集積が集積を、人材が人材を呼んでいるのです。日本一の産業界である愛知をそういう形で盛り上げたい。県内では既に、高校生らが地元大学の研究者の指導で論文を書いた

り、実習をしたりする高大連携事業などに取り組んでいます。また、4月に名古屋市で開校する愛知総合工科高校では、2年課程の専攻科を日本初の公設民営型として、民間企業から指導者を招くなど産学連携を進めていきたいと考えています。